

|   |           |
|---|-----------|
| (氏名) 阿久津 由佳   | (学部) 経済学部 |
| <p>1 重要事項</p> <p>(1) コロナ禍による制約のなかでの英語カリキュラムの実施のための対応</p> <p>2021 年度も、コロナ禍中での英語カリキュラム実施のために多くの時間を割いた。2021 年度始めからの全面的に原則対面授業再開という大学の方針を受けて、発話が必要という語学授業特有の条件下で、いかに学生と教員の安全を守りながら効果的な英語授業を実施していくべきかについて、2020 年度末から 2021 年度前期に非常に時間を使って検討、対応した。具体的には、実施方法やガイドラインの検討、計画、非常勤講師の方々への説明会や、個別の質問への対応等である。英語部会会議も年度内に 20 回以上実施され、その他 Teams 上での話し合いも頻繁に行われた。検討した主な内容は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 制限下での対面授業に必要な必修英語全体のシラバス変更<br/>2019 年度中に決定していた対面授業シラバスをもとに、制限下で対応できる内容とそぐわない内容を検討し、必要な修正を行った。また、断念せざるを得ない内容については別の教材を用意した。授業実施の上で注意すべき点などについて細かく文書化して先生方に提供した。</li> <li>b. 非常勤の先生方に対するシラバス変更の説明のための zoom セッション<br/>先生方の都合にも合わせ同内容を複数回実施した。</li> <li>c. 実際に授業を実施していく上での非常勤講師の方々からの質問や相談への対応 (Zoom およびメール、Teams での対応など)</li> <li>d. 対面授業に対応するための英語授業特有の問題点についての洗い出しとそれに対応したガイドラインの作成 (2020 年度末から継続)<br/>安全で効果的な英語授業実施のために非常勤の先生方が授業内で実施すべき方策や注意点などについて英語部会で作成したガイドラインを作成した。</li> <li>e. 2021 年度授業担当者会議<br/>2021 年度に英語科目をご担当いただいた非常勤の先生方と 2021 年度の振り返りと 2022 年度の新カリキュラムについてハイブリッド会議を開催し、全体会と担当レベルの先生方との分科会を実施した。分科会ではレベルコーディネーターを務める 3 科目について、担当の先生方と話し合い、問題点などを共有するとともに、今後の新カリキュラム作成に向けて、各科目内容、遠隔授業やカリキュラムの評価についても意見をうかがった。また 2022 年度の方針等についても説明を行った。</li> </ul> <p>(2) 採用及び時間割担当者</p> <p>2021 年度の採用および時間割作成担当者としての業務にも多くの時間を使った。2021 年度は計 4 回の公募、書類審査、面接を実施し、その際書類作成、調整等を行った。また、学期中や年度中にも減コマや辞退の申し出が計 5 件あり、その対応も必要であった。また、時間割作成は、半期で 200 コマ近い英語関係コマについて、各先生の希望の曜日時間、使用教科書や担当レベルと、本学の時間割設置ルールของすべて満たせるように膨大な時間を費やして調整を行った。途中の採用状況や辞退の状況にも対応して最終的な時間割案作成まで 25 回ほどの改訂を重ねた。</p> |           |

(2) 研究

前年度に引き続き英語の語用論的要素をどのように学校英語教育に取り入れるかについての研究を進めているが、コロナ関連の授業対応と採用・時間割の業務に追われ研究にあまり時間を割けない1年であった。しかし、オンラインによる学会に参加することができた (JALT 2021)。

2 その他の事項

英語資格試験の受験や英語力を伸ばすための勉強法などの相談があり、メールやZoom、後期には対面で個別相談を実施した。

3 次年度以降の計画・抱負

2022年度は、以前ほどカリキュラム実施に時間をとられないと考えられるので、研究に時間を注ぎたい。遠隔授業と教室内での zoom を活用した授業を実施して、オンライン特有の問題や動機づけなどについての課題を感じたので、これもテーマに取り入れて研究を進めたい。また、カリキュラム関係では、現行カリキュラムの評価をし今後の変更を始めていくべき年なので、英語部会で分担して進めていきたい。